

令和5年度 福生市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(第8期) 施策評価調書

事前資料4-1

高齢者福祉計画と介護保険事業計画は、基本理念を「住み慣れた地域で、安心して、心豊かに生活するために～地域包括ケアシステムの推進～」とし、計画を推進していくために三つの基本目標を定め、具体的な取組を展開していきます。

●今期(R3～R5)のポイント
前期の計画は、第5期福生市地域福祉計画に含め進捗管理していましたが、今期の計画から介護保険事業計画(第8期)と一体的な計画として策定し、進捗管理していきます。

基本方針	施策の方向性	指標と目標					総括
		指標名	R2	R3	R4	R5	
			現状値	計画値	計画値	計画値	
			-	実績値	実績値	実績値	
基本目標1 いきいき・すこやか	社会参加・生きがい P.32～P.33	介護サポーター事業の登録者数 (人)	46	53	59	65	・介護サポーターの主な活動場所は介護保険施設であるため、感染症の影響で施設の受け入れを大幅に増やすことができませんでした。また、活動のうち、配食サービスの配達作業についても、配食サービスの給付が減っており、活動を増やすことができないため、目標を達成できませんでした。 ・老人福祉センターの講座等の延べ参加人数は、新型コロナウイルス感染症が5類に下がり、コロナ禍前の人の交流が戻ったことから大幅に目標値を超えることができました。今後も高齢者の社会参加のきっかけづくりとなるよう各種事業を実施します。
		老人福祉センターの講座等の延べ参加人数 (人)	173	400	400	400	
	介護予防・フレイル予防 P.34～P.35	介護予防教室の参加者 (人)	130	240	240	240	
			-	191	239	247	介護予防リーダーを中心とした公園体操や地域の通いの場への運動指導員、理学療法士の派遣など、介護予防に地域で取り組めるよう支援しました。
基本目標2 あんしん生活	認知症の支援 P.36～P.37	高齢者見守りキーホルダー・アイロンシールの登録者数 (人)	119	125	150	175	・高齢者見守りキーホルダー・アイロンシールは、外出に不安のある方も登録が可能となっており、主にご家族からの「介護に関する初めての相談」が多い様子です。認知症者や家族の状態に合わせ、介護保険サービスやその他の施策を組み合わせ支援しました。 ・年に2回介護予防情報誌を全戸配布しました。この情報誌は、地域包括支援センターの紹介や介護予防に関する情報を掲載しており、認知症相談窓口の周知を図るとともに、高齢者サービスにつなげていきます。
		認知症相談窓口の認知度 ※	一般高齢者		35.7%		
		基準は令和元年度 一般高齢者 31.7% 要支援者(認定者) 27.5%			21.5%		
	要介護者(認定者)		31.5%				
	見守り支援 P.38～P.39	救急医療情報キット新規配布人数 (人)	109	120	120	120	
			-	103	81	93	
生活支援 P.40～P.41	配食サービス事業の年間配食数 (食)	10,193	10,000	10,500	11,000		
		-	8,954	6,477	5,242		
住まい・住環境の支援 P.42～P.43	自立支援住宅改修給付事業 (件)	36	30	30	30		
		-	31	32	48		
基本目標3 ささえる介護	介護を支える地域づくり P.44～P.45	家族介護者教室の参加者数 (人)	57	78	78	78	3つの地域包括支援センターで、家族介護教室を1回ずつ実施しましたが、参加人数が目標値に届きませんでした。認知症家族や当事者が集う場のオレンジカフェなどを10回実施しました。どちらの事業も専門職や参加者が家族介護者の話を傾聴し、家族介護者がほっとできる場を作りました。
		リハビリテーションサービス提供体制の構築 P.88 (回)	0	7	7	7	
	介護給付適正化計画 P.96～P.97 (件)	ケアプラン点検実施件数	3	6	6	6	
			-	4	4	6	今後も個々の受給者が真に必要なサービス提供に努めていきます。

※この指標は、3年毎に実施している高齢者実態調査の項目の一つです。次回調査は令和7年度を予定しています。